

栃木県及び周辺の地震活動（令和6年9月）

【地震活動概況】

今期間、県内で震度3以上を観測した地震はありませんでした（前月1回）。
期間内の県内の最大震度は2で、震度1以上を観測した地震は7回（前月6回）ありました。

【栃木県及び周辺の地震活動】

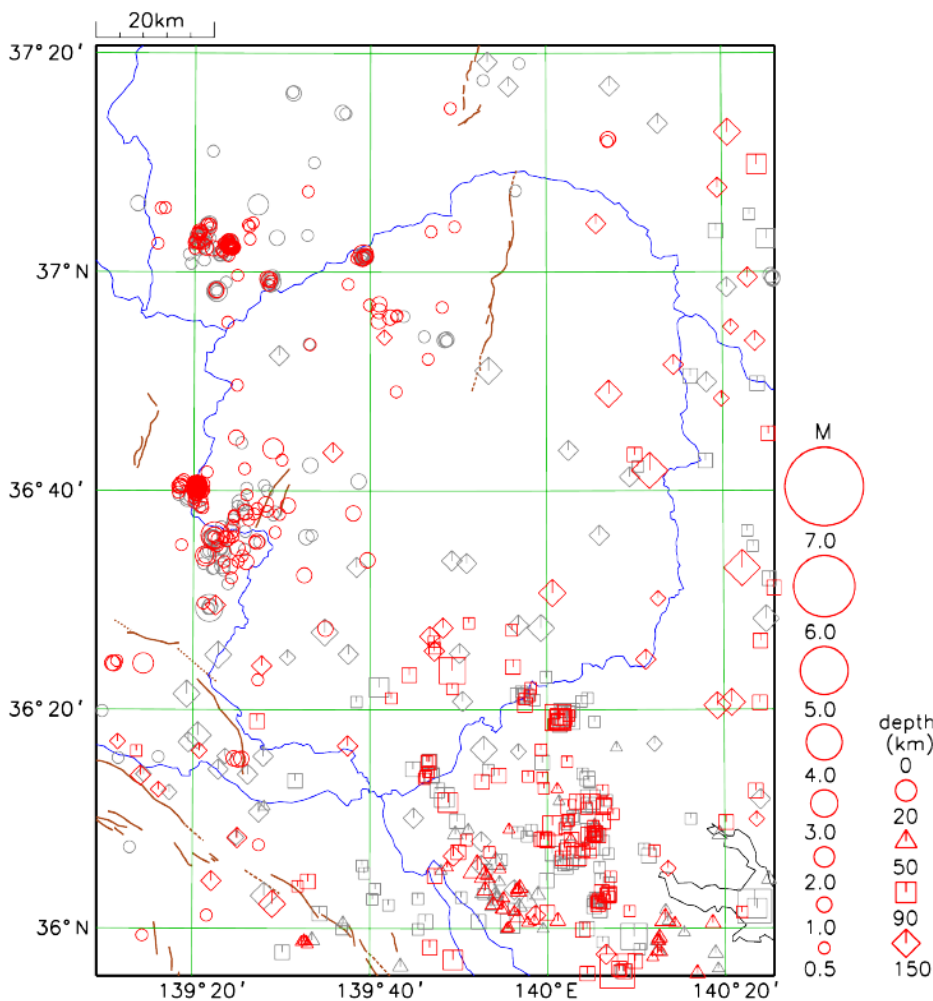


図1 震央分布図（2024年8月1日～2024年9月30日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・Mはマグニチュードで0.5以上、深さ（depth）は150kmまでの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』（国土地理院）を加工して作成した。

【9月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	9月7日	22時42分	東海道南方沖	32° 15.7'	137° 53.1'	399	5.3	2	2
2	9月8日	10時41分	福島県沖	37° 30.7'	141° 53.3'	55	4.6	2	1
3	9月8日	19時03分	群馬県南部	36° 35.9'	139° 22.3'	5	3.0	1	1
4	9月13日	4時18分	茨城県南部	36° 05.3'	139° 52.1'	47	3.4	2	2
5	9月16日	1時51分	茨城県南部	35° 56.0'	140° 07.8'	64	4.1	2	2
6	9月20日	12時07分	茨城県北部	36° 32.9'	140° 22.1'	94	3.7	2	1
7	9月22日	16時42分	東京都多摩西部	35° 41.9'	139° 07.1'	122	3.7	2	2

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

【震央分布図範囲内の地震】

今期間中、県内を震源とする震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【防災メモ】北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたら

日本海溝・千島海溝沿いは、世界的にみても有数の地震活動が活発な領域です。このうち、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の領域では、最大クラスの津波を伴う巨大地震が約300~400年間隔で発生するとされており、最後の地震発生時期が17世紀であることから次の巨大地震が切迫していると考えられています（図2）。

また、巨大地震が想定されている領域（以下、想定震源域）の両側では、1963年択捉島南東沖地震（モーメントマグニチュード（以下、Mw）、8.5）や2011年東北地方太平洋沖地震（Mw9.0）が発生していますが、これら地震の前にはMw7クラスの地震が「先発」したことが知られています。

これらを踏まえ、想定震源域やその周辺でMw7.0以上の地震が発生した時、「後発」する大規模地震への注意を促すことを目的として「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が作られました。世界的な地震発生事例を踏まえても、この情報が出た時に実際にMw8.0以上の地震が7日以内に発生する頻度は概ね100回に1回となりますが、巨大地震が発生した場合の甚大な被害を少しでも軽減したいという思いが、この情報にはこめられています。

では、栃木県に住んでいる私たちはこの情報をどのように受け止めればよいのでしょうか。それは、情報発表を日頃からの地震への備えを見直すよい機会と捉えることです。後発する地震に対して過度に気にかけることなく、水や食料などの備蓄や家具の固定、避難場所や避難経路、家族との連絡手段等の再確認を行いましょう（図3）。この備えは、想定震源域の巨大地震に対してのみならず、足元で起きるかもしれない別の地震に対しても役に立つはずで

・北海道・三陸沖後発地震注意情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nceq/>

・北海道・三陸沖後発地震注意情報について

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nceq/info_guide.html

・北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ（内閣府HP）

https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index1.html

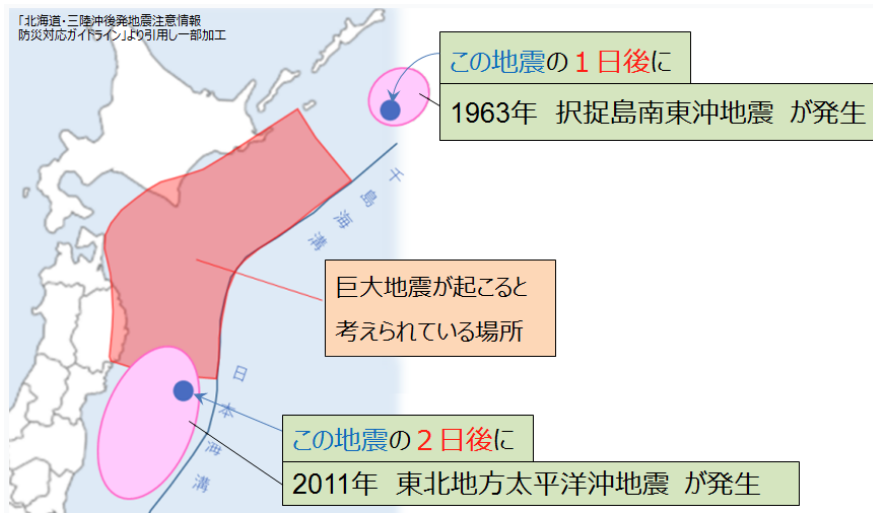


図2 北海道根室沖から岩手沖にかけての巨大地震想定震源域（札幌管区気象台 HP より）。

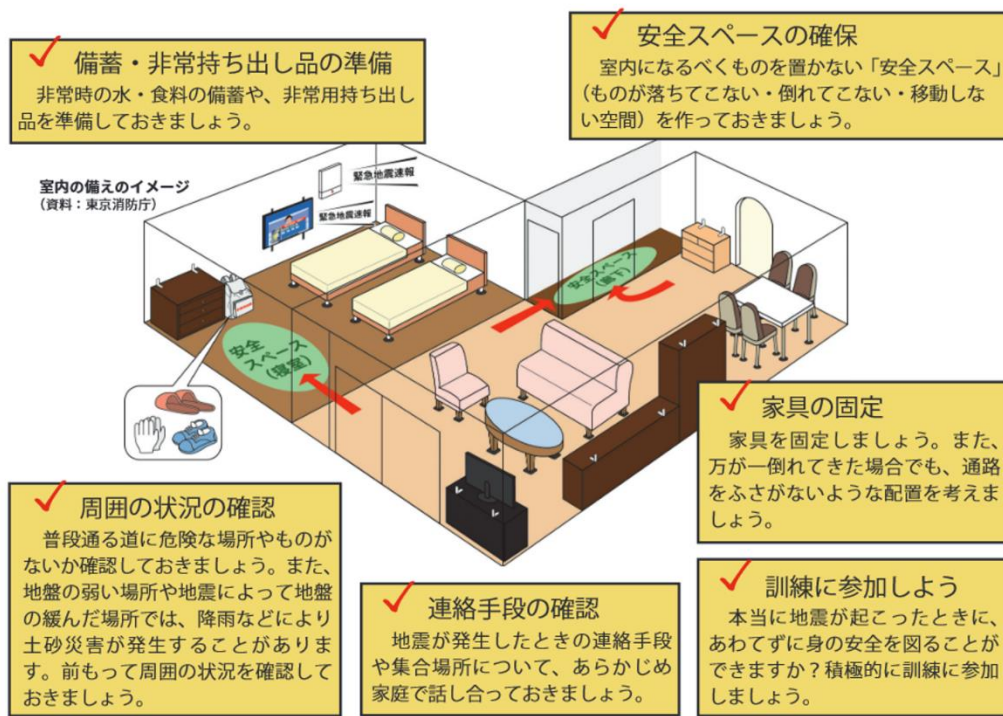


図3 室内における日頃からの地震への備え（気象庁パンフレット「地震と津波」より）。

資料についての問い合わせ先：宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260